3/29 赤旗

原発避難 住民が学習会

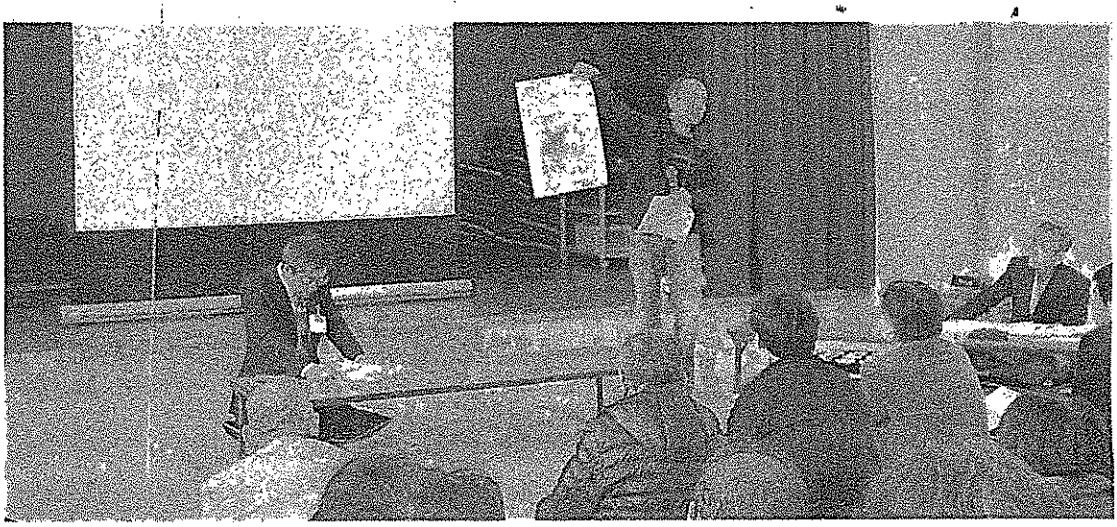
福井・若狭

高浜3・4号 今の計画では被ばく

関西電力高浜原発（福井県高浜町）から30キロ圏にかかる同県若狭町で26日、住民らを対象に、原子力災害時に備える住民避難計画の学習会が開かれました。同町で活動する「安全なふる里を大切にする会」（石地優会長）の主催で、三十三（みそみ）公民館に約40人が参加しました。

会は、この間取り組まれた「もう動かすな原発！福井県民署名」運動を契機に結成。関西電力高浜原発3、4号機の安全性と避難計画の説明会を求めた請願が昨年12月町議会で全会一致で採択されていますが、町が応えないため、今回の開催となりました。

町からは環境安全課の深水滋課長と大南輝也防災対策室長が出席。深水課長は「町としても、こういう機会をもたないといけない」とのべました。



避難計画について考える石地会長（立っている人）ら＝26日、福井県若狭町

大南室長が計画を説明し、避難ルートについては「簡単には決まらないが、もう少し（ほかにも）設定できないか協議している」とのべました。

石地氏は「避難の鉄則は『より早く、より遠く』です」と強調し、原発から5～30キロ圏の即時避難基準が空間放射線量の実測値で1時間当たり500マイクロシーベルト超である問題点を指摘。「普段の1万倍だ」「今の計画は被ばくする計画だ」とし、甲状腺被ばくを抑える安定ヨウ素剤の事前配布も要望しました。

参加者からは「対策が遅い」「社会的弱者が速やかに避難できることが大事だ」との意見のほか、自分の県内避難先を確認したという参加者からは「住所も名称も違っていた」との指摘もありました。

日本共産党の北原武道町議は「町は、もっと国や県にものを言う必要がある」とのべました。